

在セネガル日本国大使館月報

2019年10月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 12日、サル大統領は、大統領府においてワッド前大統領と会談した。共同コミュニケによれば、石油・ガス田開発、セネガルや西アフリカ地域の平和と安定等について意見交換した。

(日本関連)

- 日本は、ダカール・フォーラムへの5億8千万CFAの財政支援を決定した。

(外政)

- 24日、サル大統領は、ソチで開催されたロシア・アフリカ・サミットに出席し、道路やエネルギー分野での対セネガル投資拡大に期待を示した。

(経済)

- 16日、閣議は天然ガスの採掘に係る法案を採択し、今後、国会の審議にかけられ、大統領が公布することになる。

ガーボベルデ

- フォンセカ大統領は、ロシア・アフリカ・サミットに参加し、エネルギー、観光、及び農業分野での協力の拡大に期待を表明した。また両国は査証免除協定に署名した。

ガンビア

- 8日、ガンビア政府は、ジャメ前大統領の資産を売却し、収益の90万ユーロを同前大統領の独裁時代の被害者を救済するための基金に充てる旨発表した。

ギニアビサウ

- 30日、ポルトガルを訪問中のバルボザ外相と会談したシルヴァ・ポルトガル外相は、ゴメス首相に率いられた政府が合法であり、インバリ首相の「任命」は合法性に欠けると述べ、ヴァス大統領に11月24日の大統領選挙実施に協力するよう呼びかけた。

セネガル

(内政)

内政一般

- 9日、社会党拡大中央執行委員会は、ンジャイ前漁業・海洋経済大臣を暫定書記局長に選出した。タノール・ジャン前書記局長の死後、書記局長は空席となっていた。(10日 Le Soleil)
- 12日、サル大統領は、大統領府においてワッド前大統領と会談した。共同コミュニケによれば、石油・ガス田開発、セネガルや西アフリカ地域の平和と安定等について意見交換した。(14日 Le Soleil)
- ジュネーブで開催された人権理事会での議論の終了後、外務省はコミュニケを発表し、セネガ

ル代表団が行った有罪判決を受けたカリム・ウッド元大臣について復権や損害賠償免除を検討している旨の発言を否定した。(18日 Le Quotidien)

- 21日, ハリファ・サル前ダカール市長は, 恩赦による釈放後, 初めて公の場で発言した。今後の政治活動については言及を避けたが, 天然資源の開発等, 国政上の課題について自らの意見を述べた。(22日 RFI)
- 21日, セネガル政府は, 国連人権理事会における発言に関して, ムスタファ・カ法務省人権局長及びサンバ・ンジャイ・セック官房長(法務大臣政務官付き)を解任した。また, サル大統領の三選について否定的な発言を行ったソリィ・カバ外務省在外セネガル人局長も解任された。(22日 L' Observateur)
- 24日, 2019年大統領選挙に出馬し敗北したイドリサ・セック候補, マディケ・ニャン候補及びイッサ・サル候補等は, 協議を緊密にして連携を強化していく旨表明した。(26・27日 Le Soleil)

治安関連・社会動静関連

- 3日, 北西部ロツソ市において, テロの容疑で指名手配中のアダモ容疑者が逮捕された。同容疑者はナイジェリア及びサヘル地域にテロ活動を行い, 多くのテロリストと連絡を取っていたとされる。(9日 Le Soleil)
- 25日, 奨学金支給の遅延等に抗議するダカール大学の学生がデモを実施し, 破壊行為を行ったため, 治安当局と衝突し, 催涙ガス等で鎮圧された。(26・27日 Walf Quotidien)
- 27日, カザマンス民主勢力運動(MFDC)の元スポークスマンで2004年のセネガル政府との和平合意でも一役を果たしたアブドゥ・ジャッタ氏がジガンシヨール市から約40kmの所にあるMlompで武装した2名に銃撃され死亡した。容疑者の行方を追っている。(28日 RFI)
- 29日, ダカール港にてベルギーから到着しセネガル経由でガンビアに向かう車両の中から30億FCFA相当の43kgのコカインが押収された。(30日 Le Soleil)
- 30日, セールズ米國務省テロ対策コーディネーターはンジャイ内務大臣及びバ外務大臣と会談し, サヘル地域におけるテロ情勢及びテロ対策における協力について協議した。(30日 L' Observateur)

(外政)

二国間関連

- 7日, ルモワンヌ仏外務政務官は, アフリカ大陸国際フォーラム(FICA)の開会式に参加した。テロ対策等がテーマ。今回で20回目の開催となるが, アフリカで開催するのは初めて。同政務官はサル大統領とも会見した。(8日 Le Soleil)

国際情勢・国連機関支援等

- 3日, サル大統領は, 西アフリカ経済通貨同盟(UEMOA)の治安対策資金に関する会合に参加し, 西アフリカがテロの震源地になっているとして, 資金の投入の必要性を主張した。(4日 Le Soleil)

- 5日、世界平和統一家族連合は、鮮鶴平和賞にサル大統領等を選出した。サル大統領は、アフリカにおけるグッド・ガバナンスの推進が功績として評価された。(7日 Le Soleil)
- 21日、サル大統領は、ノルウェーを訪問し、「海洋保護に関するオスロ会議」に出席した。(23日 Le Soleil)
- 24日、サル大統領は、ソチで開催されたロシア・アフリカ・サミットに出席し、道路やエネルギー分野での対セネガル投資拡大に期待を示した。(25日 Le Soleil)

日本関連

- 8日、ンジャイ漁業・海洋経済大臣は、CFAOとヤマハとの連携で進められているFRP船パイロット生産工場の視察を行った。(9日 Le Soleil)
- 日本は、ダカール・フォーラムへの5億8千万CFAの財政支援を決定した。同支援を通じてアフリカにおける平和と安全の分野での協力を強化する。(22日 Le Soleil)
- 18日、セネガル日本職業訓練センターで、マリ向け第三国研修(職業技術訓練センター指導員能力強化)が終了した。新井大使は挨拶の中で「研修に参加しなかった同僚にも知識を伝達してほしい」旨述べた。(21日 Le Soleil)

(経済)

経済一般

- 11日、ルメール仏財務大臣は、フランスがCFAフランの改革に応じる用意がある旨述べた。西アフリカでは、2020年の共通通貨ECOの導入が合意されており、これが導入されればCFAフランが消滅することになる。(12日 Le Soleil)
- ルメール仏財務大臣の発言やCFA圏ではない経済大国のナイジェリアが立場を明らかにしていないことを踏まえれば、2020年のECO導入は、CFAフランのECOへの名称変更にとどまる可能性が高い。(15日 Le Soleil)
- 2019年の世界経済フォーラムの競争力報告書によれば、141か国中、セネガルは114位であり、アフリカの中では14位となった。(16日-17日 Le Soleil)
- 16日、閣議は天然ガスの採掘に係る法案を採択し、今後、国会の審議にかけられ、大統領が公布することになる。同法案が発効すれば、法的な保護の下で、2021年に開始される天然ガスの採掘が行われることになる。(19-20日 Le Soleil)
- 世銀の報告書(Doing Business 2020)によれば、セネガルは、ビジネス環境のランキングで、18位順位を上げて、123位となった。サブサハラ・アフリカでは16位となった。(25日 Le Soleil)
- 29日、BP社セネガル事務所は、同社が開発しているGTAガス田について、既にセネガル企業71社と1500万ドルに上る契約を署名した旨述べた。(30日 Le Soleil)
- 30日、シセ石油・エネルギー大臣は、沖合10ブロックの石油・ガス開発権の国際入札を開始し、2020年9月には入札結果の公表が予定されている旨述べた。(31日 Le Soleil)

インフラ関連

- 28日、サル大統領は、バス高速輸送システム(BRT)起工式に出席した。ダカール中心部と

ゲジャワイ市を結ぶBRTにより、交通渋滞の解消及び大気汚染の改善が期待される。総工費は3000億FCFAで、世銀、欧州投資銀行、緑の気候基金等が資金拠出を行い、China Road and Bridge corporation (CRBC) が施工企業に選ばれた。(29日 Le Soleil)

カーボベルデ

- フォンセカ大統領は、ロシア・アフリカ・サミットに参加し、エネルギー、観光、及び農業分野での協力の拡大に期待を表明した。また両国は査証免除協定に署名した。(22日 RFI)

ガンビア

- 8日、ガンビア政府は、ジャメ前大統領の資産を売却し、収益の90万ユーロを同前大統領の独裁時代の被害者を救済するための基金に充てる旨発表した。同前大統領は3億6000万ドルを国庫から収奪したとされている。(9日, RFI)
- 16日、ジャメ前大統領の元側近のシンガテ氏が、真実和解委員会の聴聞を受けた。同氏は13年間にわたり同前大統領に仕え、元財務大臣の死亡等、多くの事件に関与したとされている。(16日 RFI)

ギニアビサウ

- 14日、最高裁判所は、19名の大統領選挙立候補者のうち7名を失格とした。今後5日間の不服申立期間がある。ヴァス大統領、ペレイラ野党PAIGC党首らは引き続き候補者になっている。(14日 RFI)
- 26日、野党側が開催したデモに参加していた1名が死亡した。(26日 odemocratagb)
- 28日、バルボザ外相はトルコを訪問し、チャヴシュオール外相と会談した。在ギニアビサウ・トルコ大使館の開設が合意された。(28日 外務省 Facebook)
- 29日、ヴァス大統領は新首相としてインバリ氏を「任命」した。同氏は2001年に首相、2012～2013年にかけて外相を務めた経歴を持つ。(29日 RFI)
- 29日、大統領選挙を控え、ECOWASミッションに参加する250名のセネガル第8陣派遣隊の出陣式が開催された。(30日 Le Soleil)
- 29日、CPLPはゴメス首相に率いられた政府が合法的なものであり、大統領選挙を前にした政府の解体は政治状況を不安定化させるものであり懸念している旨表明した。(29日 CPLP)
- 30日、ポルトガルを訪問中のバルボザ外相と会談したシルヴァ・ポルトガル外相は、ゴメス首相に率いられた政府が合法であり、インバリ首相の「任命」は合法性に欠けると述べ、ヴァス大統領に11月24日の大統領選挙実施に協力するよう呼びかけた。(30日 portocanal)

(注) 本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。 (了)